

フュージョンでまったく新しいサウンドを生み出す、トーン・マシン

Umbrella Company / Fusion Blender

価格：2万7,000円（税抜） 連絡先：アンブレラカンパニー

2つのペダルをフュージョン！

エフェクターで音作りをしていて、「2つの効果をミックスできれば良いのにな！」と考えたことはありませんか。このような考え方は巨大なラック・システムでは以前からありましたが、もっと気軽に足元で実現できる製品として登場したのが、Umbrella Companyの「Fusion Blender」です。

一見すると、シンプルなエフェクターのようにも見えるFusion Blenderですが、その内部には信号を2つに分配する「スプリッター」、特定の周波数を抜き出す「フィルター」、2つのエフェクターの音量バランスを整える「ミキサー」という3つの機能が搭載されており、2つのエフェクターの組み合わせで1つのトーンを作り出すフュージョン（Fusion）を簡単に実現することができるのです。

実際に使う前に、基本的な仕様から見ていきましょう。エフェクターはchAとchBのそれぞれに SEND / リターンで接続します。各チャンネルには周波数設定が可能なフィルターが用意されており、フィルター特性はローパス / ハイパスから選ぶことができます。ちなみに、フィルターをオフにしたい場合はローパス・フィルターを選択した状態で、FILTERつまみを時計回りに回しきります。また、本体



中央に設けられている3Wayスイッチは動作モードをchAのソロ、chBのソロ、chAとchBのブレンドの3段階から切り替え可能なほか、Dynacompのように位相が逆相になるペダルをフュージョンさせる際に便利なPhaseスイッチも搭載しています。

歪みを組み合わせる

では、実際の使用例をいくつか紹介します。最もオーソドックスなのが2つのエフェクターをブレンドする方法で、2種類のオーバードライブを組み合わせたり、オーバードライブとファズを組み合わせるといった使い方ではないでしょうか。

ここでポイントとなるのが、エフェクターは SEND・リターンによる接続なので、単純に直列接続するのは根本的な考え方が違うということ。歪み系を直列につなぐと2台分の歪みがかかるので、ノイズが多く、線が細くなるだけで効果的な音作りはできませんが、Fusion Blenderの場合はそれぞれ独立した音をミックスさせるので、「歪み成分を足す」使い方ができます。

さらに、FILTERを使えば、オーバードライブの中低域にディストーションやファズの高域成分を加える、といった音作りが可能。エフェクターのおいしい帯域を組み合わせることで、使い慣れたペダルでも聴いたことがないような新しい、立体的なサウンドを作ることができます。ちなみに、Umbrella Companyはプロ向けのレコーディング・ギアを多く取り扱うメーカーです。Fusion Blenderもレコーディング機器に匹敵するオーデ



ィオ特性を誇っており、サウンドの変化や色づけを気にする必要はありません。

原音を加える

Fusion Blenderは2つのエフェクトを組み合わせるだけではありません。リターン端子にケーブルが接続されていない状態ではバッファーされたダイレクト音がルーティングされるので、エフェクト音に原音を加えるという使い方が可能です。例えば、コンプレッサーでパキパキに潰した音にアタックとダイナミクスを加えるために原音を足す...といったレコーディングで多用されるテクニックも再現することができます。これはギターだけでなく、ベースで使うのも効果的です。

今回はいろいろとフュージョンさせてみましたが、「とにかく楽しい！」の一言です。帯域を変更できるのがミソであり、自分だけのトーンを作り上げるための強力な相棒になってくれることでしょう。



圧倒的なクオリティ、圧倒的なファンクション。
カナダの天才エンジニア集団が作り上げる
「レコーディング機材レベル」の音質を持つ
「多機能かつ斬新なアイデアが詰め込まれた」
ギター専用ペダル。

ENHANCE CREATIVITY



ParaEQ/Boost



Heavy



Compressor

株式会社アンブレラカンパニー

<http://umbrella-company.jp>

TEL 042-519-6855

